

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 電話011-644-4025



建畠覚造「CLOUD-36」

1984（昭和59）年（北海道立旭川美術館蔵）

建畠覚造は、セメント、ポリエステル、アルミニウムなどの多様な素材を取り入れて、戦後日本の彫刻界をリードしてきた一人である。1970年代末から合板を素材とした一連の作品を手がけるようになって現在に至っている。彼は、自ら貼り合わせた合板を作り、それを切り、削る方法で作品を制作してきた。

合板は、人工的で無機質な素材であるが、この作品では色の異なる板を互い違いに張り合わせて、地図の等高線のように削り、磨いて、曲線的で有機的な自然物を思わせる形態や模様を表現することに成功している。素材自体は木であるため、木目を利用した作品の

ように見え、人の目をあざむく効果がある。この作品を見る者は、最初、上部の雲のような形に目がいくが、やがて下部の単純な形の台が上部と同じ素材で作られていることに気づくだろう。この作品のテーマの一つは、この有機的なものと無機的なもの、あるいは人工と自然の対比である。

また、現代人は、さまざまな人工素材に取りまかれて生活しており、例えば木目をプリントした壁紙など、自然物のような効果を狙った商品は氾濫している。そうした今日の状況もまた、この作品に反映されているのである。

ボランティアということ

北海道立近代美術館

館長 水上 武夫



プロフィール

昭和11年生・北広島市在住
道新ワシントン特派員
道新取締役事業局長
道新常務取締役広告局長
道新顧問
平成11年7月 道立近代美術館館長
北海道文化審議会委員

アメリカの州は、それぞれニックネームを持っている。独立時、憲法を最初に承認し署名したデラウェア州は、「ファースト・ステート」と称してそれを誇りにしている。

テネシー州は「ボランティア・ステート」といっている。その由来は、一八四七年の対メキシコ戦争のおり、二千八百人の志願兵を呼びかけたところ、なんと三万もの人々が呼応した史実による。自分たちの土地を自らの手で守ろうとした心意気は、百年前の対英独立戦争を思い起こさせたのかもしれない。ともかく今にその誇りを伝えているということである。

「ボランティア」という言葉は、単純に「志願兵」という意味である。「正規軍に対して与えられる給与な

しの奉仕」を暗示する——というのが第一義であると、OED（オクスフォード・イングリッシュ・ディクショナリー）にある。その語源のVOLUNTAS（ラテン語）は、「自由意志」という意味だそうだ。

アメリカに住んでいて感心したこと思い出した。最初に住んでいたバージニア州北部のダンローリング地区に「ダンローリング・ボランティア・ファイア・カンパニー」というのがあった。さしずめ自警消防団といったところだ。毎年このための寄付要請があってこの寄付金は免税である。「いっぱい寄付した人の家には出勤が早い」などという影口を聞いたこともあるが、さもありなんと

思わせるところがアメリカでもある。調べたついでに、先のOEDを拾ってみると、自由意志で何かの企てに加わる、自由意志で行動を起こす——などという柱があって、さらに「木とか花が独りで芽を出し育つ」という意味合いの項目もある。たぐましく、美しいイメージがボランティアの語に含まれていることを知った次第である。

しかし、ボランティアの精神は「志願兵」のみによって成長したわけではあるまい。

例えば、キリスト教の世界にあっては、神の意志に沿って献身的に仕えることの中に隣人愛の概念が確立したといえるかもしれない。カトリックの福祉の理念は、聖アウグスティヌスによって理論化されたという。プロテスタントの世界でもルターはちゃんと隣人愛を説いている。もともと他人のために奉仕するのが宗教であるとすれば当然の帰結であり、宗教はボランティアそのものといえなくもない。

その証拠に東洋の思想においても同質の教えがある。例えば、仏教の慈悲。慈とは友愛のことであり、悲とは他者の苦に対する同情にほかならない。人間には、どこかにこの広義のボランティア精神がかねそねえられているのだと思う。何かの役に、誰かの役に立ちたいという気持ちは、恥ずかしながら小生の心にもある。知り合いがラオスの子供に奨学金を送る会をつくったので、さやかながら、力を貸して子供たちの成長に期待しているところである。「ささやか」にとどめているのは、無理な負担をして短命にならないように、という経済的な理由のほかに、高額な負担をすると傲慢になってしまつおそれを抱くからである。

そのせいかどうか、ポランティア組織は、運営がむずかしい。ポランティア組織を取材した経験からいうと、結構「タコタ」が発生する。「自由意志」と、もともと、「組織」はなじまないといってしまうばそれまだが、日本の場合、もっと本質的なところに、その原因がありそうな気がする。

「自由意志」そのものに彼我の差があるのではないか、というのが私の考えである。そもそも「自由意志」という考え方は、欧米の文化のバックボーンである。私たちの方は、表向き同様のポランティア精神といってもどちらかといえば、儒教の遺伝を引きずって「義」の色合いが強い。実は、その分、個の部分を殺して成り立っている気配がある。つまり、「自由意志」の「自由」の部分に制約が存在する。「自由意志」は私たちの場合、堅固ではないということを知っておく必要がある。そうでないと妄想の上に現実を積み重ねて、知らず知らずのうちにもろさを助長していくことになりかねないからである。

北海道美術協力はポランティアの組織として立派な仕事をしているし、一つの伝統をつくりあげつつ

ある。北海道内はもとより国内を見渡しても、これだけの実績をもつ組織は、そう数多くはない。

しかし、二十世紀の幕が閉じ、二十一世紀の幕を開けるに際して、誰もが、多分、新たな飛躍を構想しているに違いないと思う。どんな組織も、当の近代美術館もそう考えている。が、新しいことを始めるのは、そう容易でないことも確かである。「新しいこと」の意味がつかみ切れないからである。

それではどうすればよいのか。新しいことの予感の前身は見えにくいけれども、実は「旧いこと」はよく見えるものである。その旧いことを列挙して勇気をもって捨て去ることが第一のつっかかりであろう。協力会の実態をよく知らないのに、これはあくまでも一般論であり、一般論である以上は、当美術館にも通ずる可能性をもつ。

ということを念頭に置きながら、時を経た組織の停滞している様子を見ると、何を変えるにしても、面倒くさいものだという空気がある。大概において出る釘は打たれている。判断の基準は、前例になる。口を吐さずに特定の人に一任してしまう。建て前や正論を述べる人は退けられ

がちである。正論を述べた人は自分は発言したという実績を担保にして、結局は大勢に偏っている。「しゃんしゃん」が美德である。悪いことに、常に責任の所在はあいまいである。責任を追及したくとも、かつて反論を控えた後ろめたさがあるので、それが出来ない。何も変わらない道理である。

企業の寿命二十年論という説がある。その背景にあるものは、今述べたことの中にある。各種の組織も同様であろう。行政もその理由によって危機に直面している。

私たちは、これ乗り越えていかねばならない。そのためには、改めて志願時の動機を思い起こすことが何よりも大切であろうと思う。自分の選んだ道が「何のために」あるいは「誰のために」に続く道なのか、明確にして舗装していく。その目的意識がはっきりすれば、結果として自己を高めていく原動力を手にすることが出来るのではないか。この道筋がないと、再び自由意志とは無縁の「滅私」に日々追われていくことになる。

私はみなさんに館長の立場から「協力」を強要もできないし、要請するつもりもない。ただ一つ、美術

を通じてお互いの力量を高めていくことができれば、これにこしたことはない。お互いの目的はきわめてシンプルであるはずである。複雑に考える必要はさらさらないと信ずる。

両者の関係は主従であるはずもない。「自由意志」が両者の基礎である。自由意志とは、とりもなおさず、独立した人格であり、独立した機関であり、それが尊重され、意識されて初めてポランティアが成立する。

おそらく、二十一世紀のポランティアとは「助ける」というイメージをはるかに超えたところに存在するに違いない。それは人間にとつて最も大切なものを守る存在となるはずである。

このたび、水上近代美術館館長にご寄稿をお願いしましたところ、ご多忙中にもかかわらずご快諾くださいました。そして、はからずも「ポランティア」ということのタイトルをいただいたのです。

ポランティアのあり方が社会的に問い直されている昨今において、おりしも21世紀幕開け目前のこのときに、当協力会の事業運営やポランティア活動にかかわり、大きな示唆をいただきました。初心にかえり、今後の活動の指針にしたいと思えます。

編集担当・広報部

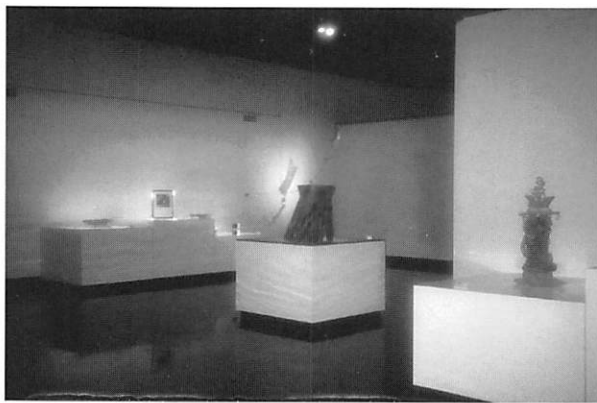
北海道立近代美術館

これくしょん・ぎやらりい

北海道立近代美術館学芸第二課長

浅川 泰

北海道立近代美術館では現在、三三三三の作品を所蔵しています。「これくしょん・ぎやらりい」はこれらのコレクションを紹介する展示のことで、平成二年度に「常設展」から「これくしょん・ぎやらりい」と名称を変え、展示にあたっては企画性を重視し、さまざまな視点でコレクションを紹介してきました。時代やジャンルを横断する総合的な内容のものから特定の作家、ジャンル、時代を取り上げるものまで展示のコンセプトが多様化し、コレクションを見せるというより、コレクションをベースにした企画展といった性格が強くなってきたのです。こうした方向のなかで、一部作品を借用しながら、展示の充実を図ってきました。「これくしょん・ぎやらりい」は、コレクションの特性を生かしながら、見せ方を工夫していくことであり、テーマや内容はコレクションの方針と無関係ではありません。



「20世紀のガラスⅡ」展

「北海道の美術」「エコール・ド・パリ」「ガラス工芸」はコレクションの大きな部分を占めており、それらに関連した展示は欠くことができません。今年度では「描かれた札幌」「エコール・ド・パリ群像」「二十世紀のガラス」がそれに当たり、「二十



「山の形象」展

世紀のガラス」は四つのシリーズの展示で、テーマ、作品、会期が変わり、一年間続きます。このほかに「北海道の美術」関係では、一人の作家を取り上げるもの（小谷博貞「未開の眼」、戦後美術を見直すシリーズ（北海道美術・一九六〇年代の動向）」があります。手で触れて彫刻を鑑賞する「ふれるかたち」は、バリアフリー化の一つでもあり、このように展示の新しい試みも行なっています。また、新しく収蔵した作品を紹介する「新収蔵品展」を毎年春に開いています。

※夜間開館…8月25日、9月1・8・15・22日の金曜日17時30分まで開館（ただし入場は17時まで）。

7/8～9/24	9/30～1/25	2/1～4/15
山の形象 <small>イメージ</small> 画家それぞれのイメージによって古来様々な表現されてきた山の表情。日本画、油彩等の作品で紹介しします。	エコール・ド・パリ群像 両大戦間のパリに生き、さまざまな伝説に彩られたエコール・ド・パリ（パリ派）の芸術家たちの人間模様をおとしてその芸術を紹介しします。	小谷博貞——未開の眼 北海道の風土に根ざしながら独自の抽象表現を追求してきた小谷博貞の芸術を紹介しします。
同時開催 20世紀のガラスⅡ 個性の開花 今世紀のガラス芸術を紹介するシリーズ第2部。ガレやラリックから現代の多様な造形に至るまで、表現の可能性を追求した作家たちを紹介しします。	同時開催 20世紀のガラスⅢ デザインとテクニク 今世紀のガラス芸術を紹介するシリーズ第3部。デザインとそれを支える技術の問題を探ります。 ふれるかたち 見るだけではなく、触れることによって多角的に彫刻を鑑賞していただきます。	同時開催 20世紀のガラスⅣ 器の革新 今世紀のガラス芸術を紹介するシリーズ第4部。器という機能や形態を新たな視点でとらえた作品を紹介しします。 北海道美術・1960年代の動向Ⅱ 60年代の北海道美術の様相を紹介するシリーズ第2回展。具象表現に焦点をあてます。

◎休館日 毎週月曜日（ただし、祝日の10月9日・1月8日と11月6日は開館）、勤労感謝の日（11月23日）、天皇誕生日（12月23日）、年末年始（12月28日～1月4日）、展示替期間（9月26～29日・1月26～31日）。

これくしょん・ぎやらりい
カレンダー

MUSEUM CALENDAR

2000. 9月～2001. 3月

美術館の特別展覧会ご案内

※貸館の場合は、会員証は使えません

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	8/19～9/24 20世紀 美術の巨匠	9/30～11/12 目撃者—— 写真が語る20世紀	貸 館		12/19～1/25 A★MUSE★ LAND 2001	2/1～3/11 池田満寿夫展	貸 館
三岸好太郎	9/8～11/7 それぞれの青春 俣野第四郎・三岸好太郎・久保守		11/14～1/21 詩と絵画のハーモニー		1/27～3/25 三岸好太郎・節子賞展		
旭川	9/8～10/15 歌川国芳一門の全貌展 —国芳から芳年、清方まで—	貸 館	11/3～3/25 コレクションによる——注文の多い“美術”展				
函館	8/19～10/15 箱根寿保展 煌めくメタモルフォシス —聖と俗の狭間で—		10/22～12/3 いま 現在に生きる書 北海道の詩歌を書く	貸 館	1/5～3/20 北海道・港町浪漫 函館・小樽・釧路—ロマンと抒情の風景		
帯広	8/18～9/27 日蘭交流400年記念 17世紀オランダの巨匠 レンブラント 版画展	10/6～11/29 北海道美術の20世紀Ⅱ 美術はなにを記録してきたか		12/8～1/24 国境を越えるアート 東欧絵本の世界展		2/2～3/28 帯広美術館コレクション撰集 今日のプリントアート	
釧路	8/31～11/9 北海道・港町浪漫 函館・小樽・釧路—ロマンと抒情の風景		11/18～1/31 ジュネーヴ プティ・パレ美術館所蔵 エコール・ド・パリ 1920			2/9～3/30 釧路芸術館所蔵品展	
札幌彫刻	9/1～10/9 第10回北の彫刻展	10/14～11/26 裸婦の表現		※本館は工事のため休館 11/27～1/29 ※記念館は1/26～1/29のみ 臨時休館		1/30～3/25 裸婦の表現	
札幌芸術の森	9/4～10/16 太陽の塔からのメッセージ EXPO'70 岡本太郎展	10/22～12/17 芸術の森美術館開館10周年記念展・その2 中根邸の画家たち —戦中・戦後の札幌洋画事情—		12/23～3/25 北の創造者たち2000 —写実への視線—			

道立近代美術館主催 平成12年度移動美術館

北海道立近代美術館所蔵品による

美へのいざない



乙部町 平成12年9月17日(日)～9月21日(木)
蘭越町 平成12年9月23日(土)～9月27日(水)
妹背牛町 平成12年9月30日(土)～10月4日(水)

音更町 平成12年10月7日(土)～10月12日(木)
*10月9日(月)は休館
常呂町 平成12年10月15日(日)～10月19日(木)

入場無料

近代美術館

ピカソ・メイス、シャガール、ポロック・ウォーホル
20世紀美術の巨匠

川村記念美術館コレクションによる

八月一九日(土)〜九月二四日(日)

二〇世紀の美術は、抽象絵画に代表されるように数々の革新的な表現を生み出しました。それは、この一〇〇年における人間のありようや社会の変化と深く関わりながら生み出されたものであり、作品の時代背景や作者の当時の状況を、私たち自身が生きてきた時間や体験に照らしあわせながら、深い共感をもって鑑賞することができるのではないのでしょうか。

三岸好太郎美術館

三岸好太郎・節子賞展

一月二七日(土)〜三月二五日(日)

三岸好太郎・節子は、画家夫婦としてともに近代洋画史上に大きな足跡を残した稀有な存在です。好太郎は札幌に生まれ、わずか三一歳の若さで世を去った夭折の画家ですが、大正末から昭和初期にかけて時代の潮流を鋭敏な感性で撰取し、清新な詩情あふれる作品を残しました。一方、節子は愛知県に生まれ、女性洋画家の先駆者として未踏の道を進み、昨年、九四歳で亡くなるまで、深い精神性を持つ重厚な画風を築いていきました。



三岸節子「摩周湖」1965年

三岸好太郎・節子賞は、つねに未知の領域に挑戦し続けた二人の画業を記念して、二一世紀を切り開く意欲的で個性豊かな作品を全国に公募するものです。応募締切は八月三十一日。スライドによる第一次審査、実作品による第二次審査を経て一月中旬には審査結果が発表されます。大賞は好太郎賞、節子賞各一点。一月の展覧会では、受賞作品及び入選作品二〇〜三〇点を三岸好太郎・節子の作品とともに展示します。

旭川美術館

歌川国芳一門の全貌展

一 国芳から暁斎、芳年、清方へ

九月八日(金)〜一〇月一五日(日)

江戸時代後期の浮世絵界を主導した歌川派の中でも、歌川国芳は、師風を刷新する新味あるセンスと力強い描写によって、ひととき注目された。その作風は、雄大な筆力の武者絵によって、「武者絵の国芳」と呼ばれたほか、戯画、美人画、洋風風景画等に、近代的感覚と斬新な想像力を発揮し、多くの江戸庶民に受け入れられていった。優れた個性と幅広い画業を展開する国芳のもとには、歌川芳艶、落合芳幾、



歌川国芳「水龍の皮を穿つ人」
伝豪傑百八人之巻
短豪次郎阮小吾

月岡芳年、河鍋暁斎など、才能あふれる多くの弟子が育ち、さらに門人の月岡芳年からは、水野年方、錦木清方、伊藤東水などに画系が受け継がれ、清新なエスプリの一系列が存続した。この展覧会では、文化年間(一八一〇年代)から大正期(一九一〇年代)に至る約一〇〇年間にわたる国芳一門とその系譜を、約四〇作家一五〇点の肉筆画、版画などによって紹介する。江戸後期から近代へと続く庶民の美学を明らかにするとともに、数多くの未知の作品が発掘紹介されることも期待される。

函館美術館

箱根寿保展

煌めくメタモルフオシス

聖と俗の狭間で

八月一九日(土)〜一〇月一五日(日)

函館生まれの箱根寿保(一九三六〜一九九九)は、武蔵野美術大学を卒業した後に郷里へ戻り、地元赤光社や国画会、全道展への出品、また意欲的に開催した個展を通して、長年にわたる道南の美術を牽引してきた油彩画家です。

その画風は、初期の抽象表現主義的な作品から、アジア、ヨーロッパなど



箱根寿保「ヨハネの首」
1996年

の旅先、あるいは縄文など古代世界を題材とした詩情豊かな作品、仏教やキリスト教に通じる宗教的な色彩を帯びた作品、異形の生物が登場する夢幻的な作品など広範囲にわたります。没後初の回顧展となる本展は、これら画家の画業をたどる作品群に併せ、花や肖像、風景などカラリストとしての本領が発揮された小品群、そして生涯愛してやまなかったクラシック音楽を題材とした水彩画などにより、急逝した画家の芸術世界に迫るものです。

帯広美術館

国境を越えるアート

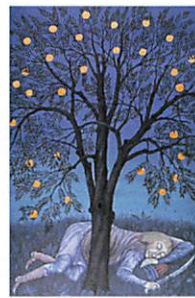
東欧絵本の世界展

二月八日(金)～一月二四日(水)

東ヨーロッパ諸国は、かつて東欧という政治的な枠組みでくくられていたが、民族的、文化的には一言で語り尽せない多様性をはらんでいます。この地域は優れた絵本作家を輩出し、この分野の世界的な中心地のひとつとなっています。かつて社会主義体制下において、芸術家の創作活動が制約を受けた時代にも、自由な創造の許され

た絵本というジャンルにおいて、才能豊かな画家たちが大きな足跡を残してきたのです。そこには、東ヨーロッパ特有の文化と民族性に基ついた豊かな表現があふれています。

本展では、東ヨーロッパを代表する一〇名による絵本の原画、約二〇〇点を展示します。空想とユーモア、深い洞察力に満ちた東欧絵本の世界を紹介する、日本で初めての展覧会です。



チャベック「火の鳥」1999年

釧路芸術館

北海道・港町浪漫

函館・小樽・釧路

ロマンと抒情の風景

八月三十一日(木)～一月九日(木)

小樽、函館、釧路。港を中心に発展し、個性ある歴史をかさねてきた北海道を代表する港町です。いずれも、その独特の情緒ある街並や雰囲気から、しばしば歌謡曲に歌われ、小説や映画の舞台となってきました。港が見下ろせる丘や坂道、レンガや石造りの倉庫、大小の船が行き交う様子、美しい夕日——美術家たちもまた、こうした風景や「港町」という言葉そのものがもつ

どこかロマンチックなイメージにひきつけられ、さまざまなかたちであらわしてきたといえるでしょう。

本展では、北海道に縁の深い作家たちがとらえた三つの港町の魅力を、油彩画、版画、日本画、彫刻の作品約五〇点からながめます。中村善策、木田金次郎、金子誠治、片岡球子、田辺三重松、松島正幸、阿部貞夫、米坂ヒデノリ、高島達四郎など、独自の創作活動で知られる作家たちの、ロマンと抒情にあふれる光景をぜひお楽しみください。



金子誠治「あかね」1970年

芸術の森美術館

EXPO'70

太陽の塔からのメッセージ

岡本太郎展

九月四日(月)～十月一六日(月)

一九七〇年の日本万国博覧会とその会場中央に出現した岡本太郎の《太陽の塔》。その記憶は、高度成長期の世相とともに日本人の脳裏に残っています。しかし、岡本がどんなメッセージをこめ《太陽の塔》を制作したか、今まで十分に顧みられてきたとはいえません。かれの構想は、当時の楽観的な進歩主義に迎合することではなく、むしろそれに多様な人類に共通の根源的生命力をぶつけることだったのです。



「太陽の塔 (1/50)」1970年

本展は万博を巡る岡本の軌跡を《太陽の塔》の試作原型や設計図面と当時の資料、また塔内部の一部再現などでたどります。くわえてパリで前衛芸術運動に深く関わった戦前から晩年までの絵画、彫刻、建築、デザイン、さらに縄文や沖縄の文化的価値を「発見」して日本の伝統への見直しを迫った思想家としての側面にも光をあて、岡本太郎(一九一一年—一九九六)の芸術と思考を広く紹介します。

札幌彫刻美術館

第一〇回記念 北の彫刻展

九月一日(金)～十月九日(月)

北海道を活動の拠点とする彫刻家を招待して行う「北の彫刻展」は、彫刻との出会いの場の一つとして昭和五十七年度より隔年で開催してきました。平成一二年度は、一〇回の節目を迎えます。今回は、四〇歳代から六〇歳代までの彫刻家、二二名による展覧となります。様々な思いを昇華して制作された作

品は、作家が何にこだわり、追究していったのかを鑑賞者である私達に垣間見せてくれます。一回目からの図録を一覧すると、その軌跡がより一層明確になってきます。これが、「北の彫刻展」の面白味といえましょう。

作品と作品の間に生じる独特な空気は、お互い共鳴しあい展示空間いっぱいに広がることでしょう。



小野寺紀子「菫」

美の探訪



北海高校 3年 森 慶貴

私は小さな頃から絵を描いたり、物を造ったりすることが好きでした。そして高校に入ってから美術を選択、平成一年の学生美術全道展に初めて出品した絵が、最高賞に選ばれたのです。そして同時に「美術館協力会賞」があり副賞として「海外美術研修旅行（八泊一〇日）」に招待されました。予想もしていないこの大賞に、驚きと喜びで胸が一杯でした。

ESSAY

日頃から、美術に親しみ「美」を楽しんでいらっしゃる会員の方に思いをつづっていただきました。

また、今回は平成11年度の学生美術全道展で、美術館協力会賞を受賞した森慶貴さんにもお祝いしました。

これからも、皆様からのお便りをお待ちしております。

本年五月、この「美術研修旅行」に参加。オランダ・ベルギーに行ってきましたが、とても勉強になりました。特に感動が大きかったのは、今まで見たことのない縦横数メートルもあるレンブラントの「夜警」と呼ばれている絵画でした。また、教会や大聖堂、オランダ・ベルギーの町並みはとても素晴らしいものでした。

この美術旅行で多くの影響や感動を受け視野が広がりました。このような機会を頂き心から感謝しています。この貴重な経験を生かし、次へとつなげていきたいです。

美との出会い



工藤 玲子

三十代の初め、「美とは何か」を二年ほど考えていたことがある。考えるといっても深刻ではない。仕事の合間や通勤時間など精神が解放された時に、ふっとそのテーマに戻っていくという程度。ある日思わず足を止めて見入った青い空、雨が降りた水たまり、道端の草花などを思い浮かべて、それらの本質に共通するものをさぐっていたにすぎない。美を具現した世界に眼を開かされる

私のコレクション
ギャラリー



今 美代子

美術館の中のこれくしょん・ギャラリーには度々訪れているが、どうしても好きな作品の前で足を止めてしまう。そこで私個人の独断と偏見で私のギャラリーを作ってみた。

まずどうしても展示したいのは岩橋英遠の『道産子追憶乃巻』この絵に初めて会った時の感動は今でも忘れない。特に秋のトンぼの乱舞、しばし絵の前から離れることが出来な

たのは、それから十年後、師立原正秋の文学作品による。能、絵画、陶磁器、庭から香に至るまで多彩だった。なかでも思い出深いのは高山辰雄、加山又造画伯。当時地方にいた私は、出札の度に古本屋に寄り、二人を特集した美術雑誌を探すが無上の楽しみだった。どの分野も実物と接するのは難しく、本を介したが、この出会いで、私は美の味わい方を学んだ。

定年退職した今、美術館に親しむ時間が増した。作品を通して、作者の高い志に触れた時、私は至福の思いに包まれて館を出る。

かった。次に片岡球子の迫力満点の『富士山』、それから林竹次郎の『朝の祈り』何かが洗われるような清々しさ。山口蓬春の『向日葵』も捨て難い。さて外国作家はとっておきのシャガールとマリメロ・ローランサンに決めよう。折角だからガラスも展示しよう。エミール・ガレの『虫文花器』モノトーンの深い味わい、『シクラメン文碗』どのようにしてこのような複雑な色をたすのだろう。ドームの『雪に樹木文花器』まさに絵画。ルネ・ラリックの『タイス』あれもこれも欲しくなる。この辺で手を打つ事にしよう。

〇〇〇事務局だより〇〇〇

平成十二年度 通常総会 開かれる

去る5月25日道立近代美術館講堂において平成12年度の通常総会が開催され、提案の議題について審議されました。その概要について重点項目を中心に報告します。

議案第1号の平成11年度の事業報告・収支決算報告について原案のとおり承認可決されました。その監査報告の中で「このたびの収支決算報告にもあったが、かすかであるが今後に明るい展望が見られることは、ボランティアの献身的な協力によるものが大きく、深く敬意を表する」との口頭報告がありました。

平成11年度の事業については、会報35号に掲載しお知らせの「事業計画」のとおり実施しました。収支決算については「表1」のとおりです。会員数については、平成12年3月末で法人・個人会員合計一、七八六人前年比一〇七人の増でした。

(表1) 平成11年度収支決算総括表 (平成11年4月1日から平成12年3月31日まで) (単位:円)

入				出					
科	目	合計	特別会計		科	目	合計	特別会計	
			一般会計	特別会計				一般会計	特別会計
			売店会計	駐車場会計				売店会計	駐車場会計
基本財産運用収入		18,000		0	事業費	64,793,228	15,031,547	33,334,894	16,426,787
会費収入		17,447,000		0	管理費	7,315,628	7,315,628	0	0
事業収入		59,938,588	38,507,478	20,030,110	特定預金支出	299,788	299,788	0	0
寄付金収入		229,906	0	0	繰入金	3,000,000	0	1,000,000	2,000,000
繰入金収入		3,000,000	0	0	繰入金	0	0	0	0
特別収入		99,788	0	0	当期支出合計	75,408,644	22,646,963	34,334,894	18,426,787
雑収入		59,335	11,058	10,010	当期収支差額	5,383,973	△413,002	4,183,642	1,613,333
当期収入合計		80,792,617	38,518,536	20,040,120	当期繰越収支差額	32,776,716	6,125,556	20,699,203	5,951,957
前期繰越収支差額		27,392,743	16,515,561	4,338,624	支出合計	108,185,360	28,772,519	55,034,097	24,378,744
収入合計	(B)	108,185,360	55,034,097	24,378,744	予算額(A)	95,973,000	26,658,000	46,506,000	22,809,000
予算額(A)		95,973,000	26,658,000	22,809,000	差異(A-B)	12,212,360	△2,114,519	△8,528,097	△1,569,744
差異(A-B)		△12,212,360	△8,528,097	△1,569,744					

議案第2号の平成12年度事業計画案・収支予算案について、原案のとおり承認可決されました。

議案第3号会員の資格喪失(定款第八条及び第九条により会費を一年以上納入しないときは除名とする)については、法人会員三人、個人会員五九名が資格喪失として原案のとおり承認可決されました。

議案第4号の役員の改選については、役員の任期満了(任期2年)に伴う新役員(理事・監事)の選任で、理事の伊坂重孝氏、木内和博氏、小杉八千代氏は退任、他の役員は再任として承認可決されました。なお、

役員の役職については理事の互選で、会長武井正直氏、副会長木路毛五郎氏、鈴木英二氏を再任、欠員であった副会長に安念正義氏を選任、また、専務理事には大萱生明氏に替わって浦田久氏を選任の報告がありました。承されました。

ここで、平成12年度の事業計画及び予算について報告します。

年度事業は次のように計画しています。

- 一 道立美術館の事業活動に対するボランティアの活動協力
- 常設展の解説・美術関係資料の整理・要請のある11月の芸術週間

事業協力・アミューズランド事業協力等

二 美術展観覧の増員協力

会員証利用による関係美術館(8館)への観覧料負担

三 美術館普及活動の協力

会報・展覧会案内・美術関係資料の送付・ポスターやチラシの配布等の広報活動及び館外での美術普及活動等

四 美術講座の実施(美術館ボランティア養成を兼ねる)

4月から9月までの16講座(ボランティア希望者はこの講座のほか、ボランティア各部(事業部・広報部・売店部・解説部・資料部・研修部・特別活動部)が実施する専門養成講座を3月までの間受講

五 「つどい2000」の実施

総会終了後開催(参加者:協会員・美術関係者・美術作家及び一般市民)

六 「楽しい青空教室RartVI」の実施

対象 小学生(80名)

七 美術研修旅行の企画・実施

(1) 第8回道内美術研修旅行 8月上旬 後志管内方面

(2) 第21回海外美術研修旅行 4月から5月 (12日間)

オランダ・ベルギー

(3) 第18回道外美術研修旅行

10月～11月予定(3泊4日)

八 図録・絵はがきの作成・販売

九 「美術館協力会賞」の贈呈

(学生美術全道展の後援と最優秀作品へ賞の贈呈・副賞として海外美術研修旅行に招待)

十 会員の拡大

十一 売店・駐車場の運営・管理

12年度収支予算については「表2」のとおりです。

なお、紙面の都合で「表2」には表すことはできませんが、特に注目すべきものとして、「支出の部」一般会計事業費の中の美術館活動協力事業費の「観覧料」を、前年予算比五〇万円減の九五〇万円にしたことです。これは、関係美術館12年度展覧会の内容から会員証の利用度が減るものと予想したことなどで、これと連動して特別会計の売店・駐車場の収入についても減少するものと見込んでいます。また、事務局職員(常勤)については、従来の四人体制から三人体制(昨年十月一人退職後不補充)で対処することにしており、少しでも財政圧迫を避けるために企業努力をしています。

(表2) 平成12年度収支予算総括表(平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)

(単位:円)

区分	入				出			
	科目	予算額	前年度予算額	差異	科目	予算額	前年度予算額	差異
一般会計	基本財産運用収入	7	18	△ 11	定期預金利息	(14,281)	(15,505)	(△)1,224
	会費収入	17,640	15,600	2,040	法人・個人会員等年会費	12,945	13,660	△ 715
	事業収入	1,440	1,370	70	美術館活動協力事業費	640	765	△ 125
	寄付金収入	10	10	0	美術館講座等開催事業費	265	275	△ 10
	繰入金収入	3,000	3,000	0	美術館研修視察事業費	431	805	△ 374
	特別収入	40	100	△ 60	美術優秀創作顕彰事業	6,412	7,459	△ 1,047
	雑収入	20	30	△ 10	管理費	40	100	△ 60
					特定預金支出	100	150	△ 50
					当期支出合計	20,833	23,214	△ 2,381
					当期収支差額	1,324	△ 3,860	4,410
当期収入合計	22,157	20,128	2,029	次期繰越収支差額	7,749	3,444	4,305	
前期繰越収支差額	6,125	6,530	△ 405	合計	28,282	26,658	1,624	
収入合計	28,282	26,658	1,624					
特別店	売上収入等	32,000	30,000	2,000	売上収入	30,465	29,930	535
	雑収入	6	6	0	預金利息	1,000	1,000	0
	当期収入合計	32,006	30,006	2,000	繰入金支出	31,465	30,930	535
	前期繰越収支差額	20,699	16,500	4,199	当期支出合計	21,240	15,576	5,664
収入合計	52,705	46,506	6,199	次期繰越収支差額	52,705	46,506	6,199	
駐車場	駐車料金収入	19,200	18,500	700	駐車場使用料収入	16,759	17,917	△ 1,158
	雑収入	9	9	0	預金利息	2,000	2,000	0
	当期収入合計	19,209	18,509	700	繰入金支出	18,759	19,917	△ 1,158
	前期繰越収支差額	5,951	4,300	1,651	当期支出合計	6,401	2,892	3,509
収入合計	25,160	22,809	2,351	合計	25,160	22,809	2,351	
総合計	106,147	95,973	10,174	総合計	106,147	95,973	10,174	

役職	氏名	職業等
会長	武井直	会社役員
副会長	木路正	会社役員
理事	鈴木英二	美術家
専務理事	安念正義	会社役員
理事	浦田久	会社役員
	阿部三恵	会社役員
	石川浩	会社役員
	石川勲	会社役員
	岩田泰	会社役員
	植村敏	会社役員
	大菅明	会社役員
	杉本明	会社役員
	杉本拓	会社役員
	関本經	会社役員
	相馬承	会社役員
	高橋文	会社役員
	高橋久	会社役員
	高橋英	会社役員
	山節徹	会社役員
	和田節	会社役員
	馬場壬	会社役員
	藤井勇	会社役員
監事	藤井吉	会社役員

役員紹介

(平成14年6月まで)

美へのかけ橋

アルテピア会員募集

私たちが好きな絵を

来館者の声

ガレ展をみて

真夏の近美の1Fロビー、別世界に入った様な何かを期待させるほどの暗さ、さわやかな涼しさに、ときめきを覚える美術館です。

福本東希子

～1977年設立主旨～

魯山人展をみて

好きな作品は備前風平鉢。土に手を加える事を最少限に止め、それでいて魯山人の手の感触が伝わる、野趣溢れる鉢。料理が生きる。

丹野 茂雄

会員申込みは北海道美術館協力会（アルテピア） 札幌市中央区北2条西17丁目 電話 011-644-4025



近代美術館売店商品

編集 だより

この2000年は、21世紀における当協力会の架け橋となる大切な年と思われると思います。それは、昨年6月、定款・経営・財政（会費・会員特典等含む）を根本から見直し改善を図るため、理事會に「運営検討委員會」を設置（会報35号掲載）し、現在、検討中であるからです。今後の検討結果を待つことになりましたが、このとき、近代美術館水上館長さんから、組織のあり方を含めボランティア活動の指針ともなるご寄稿を頂きました。

会員の皆様からもこれからの協力会について、率直なご意見・ご提言をお寄せ下さるよう広報部員一同、心からお待ちしています。

「美術講座」好評開催中…

毎年、美術館協力会と近代美術館・三岸美術館共催で実施の「美術講座」。本年も4月19日から9月13日までの間、16回の講座を開講しており、毎回約百数十人の方々が熱心に受講しています。ボランティア希望者は、この講座のほか五講座のボランティア養成講座として3月まで実施の各部（事業・広報・売店・解説・資料・研修・特別活動の7部）の専門養成研修を受講することになっています。各部では、一人でも多く希望者の出ることを期待しています。

（来年度も開講実施予定）